

すいた環境サポーター養成講座 第 11 回目

日時：1/26(日)10：30～16：00

場所：万博記念公園、万博記念ビル 万博NPOセンター大会議室

◆竹林保全体験

担当：（特活）野と森の遊び文化協会 職員 佐藤 和博氏

万博記念公園の素晴らしい景観のひとつである竹林。その広大な竹林を管理する生態修復技術の専門組織、特定非営利活動法人野と森の遊び文化協会の竹林資源多目的活用ボランティア(竹仙人)による実技指導を受け、竹林保全の意義と竹の特徴などの説明もありました。受講者は体を動かしているいろんなことを学んだようでした。



◆地域実践活動の社会的効果で学ぶ 2030 アジェンダ

担当：（特活）インクルージョンプログラムラボラトリ 事務局長 岩屋 さおり 氏

地域実践活動を円滑に行うために、まずは体験学習を通して様々な社会背景をもつ多様なメンバー同士がどのようにコミュニケーションを取って、課題達成に取り組んだらよいのかを学びました。受講者各々は、渡されたバラバラの情報からチーム内で課題を発見し、それを解決するというゲームに真剣になっていました。



「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」、これは国連総会で先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的目標として採択されたもので、持続可能な開発目標（SDGs）として、17 のゴールが設けられています。

受講者は SDG s 全般を学んだ後、日本が掲げる 8 つの優先課題の中の「環境」分野、特にステークホルダーの役割について、加えて大阪府の環境総合計画と SDG s との関連などを学びました。



最後に「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、自宅や職場などで、今日から私達ができること、私達にしかできないことを受講者同士で話し合い、発表しました。

国連の掲げるこれらの目標を達成するためには、このように人々が力を合わせて考え、行動するプロセスが
大事であり、環境サポーターの役割はSDGsと一人一人の市民の橋渡し役であることも学びました。

◆ふりかえり

第11回目も、個人でのふりかえり、グループでのふりかえりをして、終了しました。